

質問事項	浦田大治氏	佐々木允氏	有田浩二氏	神崎聡氏	藤中寛之氏	大島道人氏
	d) やや遅れている	e) 非常に遅れている	c) 標準	c) 標準	e) 非常に遅れている	b) やや進んでいる
(1) 国は「循環型社会形成推進」という方向性を打ち出しており、多くの自治体がリサイクルやゴミ減量に取り組んでいます。現状の田川地域のゴミ処理政策への認識を選択してください。 a) 非常に進んでいる b) やや進んでいる c) 標準 d) やや遅れている e) 非常に遅れている この項目について、ご意見や補足があれば記述してください。	各自治体や住民が、ゴミ処理施設を単なる迷惑施設としてしかとらえていないのが残念。貴団体は大木町のケースを挙げておられます。私は県政からの視点で情報収集と連絡調整にあたり、循環型社会の実現に微力を尽くしたいと考えています。	田川地域のゴミ処理政策については、循環型社会形成推進に対する基本的な認識が十分ではないところに大きな課題があると感じます。まずは国や先進自治体の動向や情報について、共通事項として各機関が理解し、共有することが大切だと感じます。		ごみ処理の現状について考えると、田川市郡のごみは適切に処理されており、特に生活環境保全状、問題を生じていないことから「標準」と考えます。一方で、老朽化したごみ処理施設の更新については、田川市郡の一部である1市3町（田川市、川崎町、糸田町、福智町）では比較的早い段階から取り組まれてきましたが、結果的には個別整備の方向で計画が進められており、今後の人口減少、ごみの減量化を踏まえた広域的な処理による効率化という方向性には沿っていないと評価せざるを得ないところです。	焼却場の建設地を決定することができず、時間を浪費しては、循環型社会の推進の意識が十分に検討されていない。	
(2) 国が方針として示している「循環型社会」に向かう場合に、今後5年以内に田川地域（当該市町）が取り組むべき事は何でしょうか？（複数回答可） a) 4R（リフューズ、リデュース、リユース、リサイクル）の推進 b) 分別の細分化（多分別化） c) 生ゴミの資源化（堆肥や液肥、バイオマス活用など） d) ゴミ処理の広域化 e) ゴミ減量化 f) ゴミの資源化 h) 学校でのゴミや循環に関する教育の展開 i) 循環型社会に関する啓発活動の展開 この項目について、ご意見や補足があれば記述してください。	a) 4R（リフューズ、リデュース、リユース、リサイクル）の推進 b) 分別の細分化（多分別化） c) 生ゴミの資源化（堆肥や液肥、バイオマス活用など） d) ゴミ処理の広域化 e) ゴミ減量化 f) ゴミの資源化 h) 学校でのゴミや循環に関する教育の展開 i) 循環型社会に関する啓発活動の展開	a) 4R（リフューズ、リデュース、リユース、リサイクル）の推進 c) 生ゴミの資源化（堆肥や液肥、バイオマス活用など） d) ゴミ処理の広域化 h) 学校でのゴミや循環に関する教育の展開 i) 循環型社会に関する啓発活動の展開	a) 4R（リフューズ、リデュース、リユース、リサイクル）の推進 c) 生ゴミの資源化（堆肥や液肥、バイオマス活用など） h) 学校でのゴミや循環に関する教育の展開	a) 4R（リフューズ、リデュース、リユース、リサイクル）の推進 b) 分別の細分化（多分別化） c) 生ゴミの資源化（堆肥や液肥、バイオマス活用など） d) ゴみ処理の広域化 f) ゴみの資源化 i) 循環型社会に関する啓発活動の展開	a) 4R（リフューズ、リデュース、リユース、リサイクル）の推進 b) 分別の細分化（多分別化） c) 生ゴミの資源化（堆肥や液肥、バイオマス活用など） d) ゴミ処理の広域化	a) 4R（リフューズ、リデュース、リユース、リサイクル）の推進 b) 分別の細分化（多分別化） c) 生ゴミの資源化（堆肥や液肥、バイオマス活用など） d) ゴミ処理の広域化 e) ゴミ減量化 f) ゴミの資源化 g) デポジット制の導入 h) 学校でのゴミや循環に関する教育の展開 i) 循環型社会に関する啓発活動の展開
(3) 1市3町で12年間に渡って共同建設を検討して来たにも関わらず、現在、田川市、川崎町、糸田町と福智町（下田川）において3基のゴミ焼却場の新設計画が進行しています。様々な経緯がありますが、共同建設に至らない問題の本質は何だとお考えでしょうか？以下の選択肢からお選びください（複数回答可） a) 行政間のコミュニケーション不足と不協和 b) リーダーシップの不在 c) 行政の知識と理解不足 d) 議員の知識と理解不足 e) 議会の調整能力不足 f) 建設候補地周辺住民の反対 g) ゴミ処理関連の費用負担率の問題 h) ゴミ処理計画の青写真の欠如 i) 候補地選定が選挙に利用されてきた j) ゴミ処理計画に関する情報発信不足 k) 利権 この項目について、ご意見や補足があれば記述してください。	b) リーダーシップの不在 h) ゴミ処理計画の青写真の欠如 i) 候補地選定が選挙に利用されてきた k) 利権	a) 行政間のコミュニケーション不足と不協和 h) ゴミ処理計画の青写真の欠如 j) ゴミ処理計画に関する情報発信不足	i) 候補地選定が選挙に利用されてきた	l) その他（ごみ処理をどのようにするかは市町村の自治事務であり、これまでの各市町の首長、議会、住民それぞれが十分検討されてきた経緯があり軽々に論ずることはできません。）	b) リーダーシップの不在 c) 行政の知識と理解不足 d) 議員の知識と理解不足 i) 候補地選定が選挙に利用されてきた	a) 行政間のコミュニケーション不足と不協和 b) リーダーシップの不在 f) 建設候補地周辺住民の反対 i) 候補地選定が選挙に利用されてきた

	浦田大治氏	佐々木允氏	有田浩二氏	神崎聡氏	藤中寛之氏	大島道人氏	
	現状のゴミ焼却場の老朽化などにより、いずれにせよゴミ処理施設は必要です。エコミューカルではゴミ処理施設に関して3つのモデルを建設費と維持費の試算と共に提示しています(リーフレットp.4参照)。	c) 「1つの焼却場と複数の循環型施設(共同建設または受委託)」	c) 「1つの焼却場と複数の循環型施設(共同建設または受委託)」	b) 「1つの焼却場(共同建設または受委託)」	b) 「1つの焼却場(共同建設または受委託)」 c) 「1つの焼却場と複数の循環型施設(共同建設または受委託)」	c) 「1つの焼却場と複数の循環型施設(共同建設または受委託)」	c) 「1つの焼却場と複数の循環型施設(共同建設または受委託)」
	①望ましいのはどのモデルだとお考えでしょうか? a) 「3つの焼却場(各自治体単独路線)」 b) 「1つの焼却場(共同建設または受委託)」 c) 「1つの焼却場と複数の循環型施設(共同建設または受委託)」 d) その他の選択肢 上記選択の理由をご記述ください。	現時点での理想のかたちなので、支持します。建設費、維持費の安さも大切ですが、副産物として生まれる肥料やエネルギーをどのように当地で活かすのか、太陽光発電などの組み合わせも考えていい。これからの日本の農業が参考にすべき、先端技術を活かしたオランダ型農業の導入にも役立つはずです。	価格面や、今後の循環型社会構築にも上記の方法が最もよいと感じたためです。ただし、これだけ専門性も高く、運営責任が問われる運営形態であるため、責任の所在が明確にならない一部事務組合ではなく、田川市が建設主体となり周辺町村のゴミを受託する方式にすることが必須です。	リーダーが主張を変えるので困る	ごみ処理にかかるコストを考えると、「3つの焼却場」を作るよりも広域化の方が適当であり、bとcのいずれかが望ましいモデルと考えます。	ゴミの資源化を推進して資源循環型社会づくりの推進。ゴミの資源化分別で焼却ゴミの削減で焼却施設のコスト削減を進める	コスト面等
(4)	②現実的にはどのモデルだとお考えでしょうか? a) 「3つの焼却場(各自治体単独路線)」 b) 「1つの焼却場(共同建設または受委託)」 c) 「1つの焼却場と複数の循環型施設(共同建設または受委託)」 d) その他の選択肢 上記選択の理由をご記述ください。	c) 「1つの焼却場と複数の循環型施設(共同建設または受委託)」	c) 「1つの焼却場と複数の循環型施設(共同建設または受委託)」	b) 「1つの焼却場(共同建設または受委託)」	b) 「1つの焼却場(共同建設または受委託)」	c) 「1つの焼却場と複数の循環型施設(共同建設または受委託)」	a) 「3つの焼却場(各自治体単独路線)」
		ご質問の趣旨がよく理解できません。私は学者でも評論家でも市議員でもなく、県政を目指す青年政治家です。政策を実現する事が政治だと考えています。県政は政党政治です。そのために、自民党の公認を受けました。県内人口の1%に満たない田川市民の声をかたちにするため、努力します。	上記と同じ		(4)の①でb又はcと回答しましたが、cを選択するには、田川市郡における液肥の需要や循環型施設の建設適地の有無なども検討しなければならず、一方で、現行の田川市郡のごみ処理施設の稼働年数を考えると、早急に次のごみ処理施設を整備する必要があることから、整備までの期間が短いと見込まれるbが現実的なモデルと考えます。	まだ建設されていないので計画変更すべきである 将来を考え、一番有益なものをめざすことが重要である	今の現状からは
(5)	設問4)でご回答いただいた望ましいモデルに向かうための解決策は何でしょうか?ご意見を記述してください。	一般ゴミの処理は、私が目指す県政ではなく、市町村に責任があります。しかし、広域的な事業は自治体の意向ですべてが解決するものではありません。周辺の県議さんや首長さんと密接な連絡を取りながら、望ましいモデルの実現に向け、全力でサポートします。	十分な情報共有と議論だと感じます。住民の立場からすれば、ゴミの分別作業は手間が必要で、また高齢化や生活形態の多様化がそれらを一層困難にしています。その点を踏まえた議論を住民間で充分に行う事が急がれます。またその際、議員や首長、執行部も住民と同じ立場に立って議論を行う事が必要です。また焼却施設のみを言えば、いまだに黒い煙の出る迷惑施設という印象を強く持っている方もいますが、ご存知の通り現在の焼却施設は安全性も高く、住民のイメージと大きく違う現状にあります。過去の情報や憶測にとらわれないためにも、丁寧な情報提示は早急に行うべきです。		田川市郡のごみ処理施設の整備については、これまで紆余曲折があつて、現在、3施設を整備する方向で話が進められております。建設予定地がなかなか決まらず、現在に至つたという事情もありますが、住民の皆さんには広域処理を望む声があること、将来の財政負担を考えても広域化にはメリットがあることは明らかです。そこで、今回の統一地方選挙の結果次第では、関係市町の間で市町村の自治事務であるごみ処理について再度議論されることもありうるかと考えています。	資源循環型社会づくりの必要性和焼却ゴミの減量化によるランニングコストの有益性について住民の理解を得る	各市町で十分検討して欲しい。
(6)	田川地域のゴミ処理政策及びゴミ処理施設に関してご意見を自由にご記述ください。	今回のゴミ処理問題は、田川の将来を左右する本当のエポックメイキングになりそうです。統一地方選がなければ、シャンシャンと三つの処理場建設が決まり、ほくそ笑んでいた人がいたかもしれません。しかし、選挙結果やその後の首長さんの心変わりや、三つになることも否定できないのです。問題意識を持たれ、純粋にゴミ処理問題の勉強を重ね、住民運動としてのうねりを起こされたエコミューカルの皆さんに、敬意を表し、連帯できることをうれしく思います。	ゴミ焼却施設には、福岡県の廃棄物担当部署や記載では市町村支援課など、県も大きな役割を担っています。他県では県がゾーニングし、ゴミ焼却場の広域化を推進していった事例もあります。今後は広域行政を添加する県の強みを生かし、ゴミ行政についても広域化計画の策定を県が主導することを、県議になった場合は促していきます。また同時に循環型社会構築のための取り組みについても、廃棄物行政に責任を持つ県の役割と専門性を生かした取り組みを強化すべく活動したいと思っています。ゴミや下水道等「静脈」部分の施策は、住民からは見えにくく、また特殊な状況も相まって不正の温床にもなりやすい分野です。事実、田川地区清掃施設組合時代にも、下田川塵芥処理センターの改修にからむ入札妨害事件で、町議、職員、業者が逮捕もされています。田川地区清掃施設組合時代に行った監査でも、違法な入札や不明瞭な事務運営が多く見られました。運営形態の責任の明確化、住民の理解醸成、そして議会や首長の間で共通の情報と客観的なデータ、住民の声のもと、憶測にとらわれない活発な議論が展開される事を強く願っていますし、そうなるよう私がかんばりたいと思っています。		田川市におきましては3施設が整備される方向で話が進められておりますが、先ほど回答しましたように、再度ごみ処理についての議論がなされるのであれば、ごみ処理の経費は最終的には住民の皆さんの負担となるものですので、住民の皆さんともよく話をしていただきたいと思います。一方、現行の田川市郡のごみ処理施設の稼働年数を考えると、早急に次のごみ処理施設を整備する必要がありますので、そういったことも踏まえて新たな施設の整備を速やかに進めていく必要があります。	市・町長と議会が一体となって田川地域の将来のために循環型社会づくりを推進すること。	